

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 **建設事務事業**

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	人にやさしい交通拠点の整備事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	街路・用地担当係長 堀田 彰
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	交通対策	コード	3 1 2
	項				単位施策(中)	交通結節点の改善	コード	3 1 2 3
		道路・交通			単位施策(小)	人にやさしい交通拠点の整備	コード	3 1 2 3 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	駅周辺の公共施設の巡回実施 3 駅		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	車椅子利用者に対し、車椅子用駐車場を積極的に利用してもらう。			
1-5 事務事業の内容	身体的弱者が安心・安全に通行できるように中京競馬場、前後、豊明駅の公共施設(道路構造物、建物等)の点検を実施し施設管理者へ提言をする。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成19年度	身体障害者用駐車場利用状況確認をしてきた。	交通拠点となる場所は特にバリアフリーが必要である。	利用状況が極少である。
	平成20年度	実際車椅子を使って身体障害者駐車場から移動するのに問題となる箇所はないか確認した。常時、利用状況確認した。	不特定多数が利用する施設は、段差解消など人にやさしい施設が望まれている。	社会不況に伴い、公共交通機関利用にシフトしている現在、安心して利用出来る公共施設の設置が望まれている。
	平成21年度	有料駐車場の料金回収時に駅周辺を回り、弱者の立場で視線を低くし利用状況に不備が無いが確認した。	肢体障害者が満足できる人にやさしい施設の要望がある。	肢体障害者などが自由に行動できる駅及び周辺施設のバリアフリー化設置が望まれている。
	平成22年度	有料駐車場の料金回収時に常時施設巡回を実施し、施設の老朽化の早期発見を心掛けた。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(%)	後期目標値(%)	指標の説明
	巡回体制の強化率(%)	30(%)	60(%)	駅周辺の公共施設を定期的に巡回出来る体制作りを目指す。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単位)	-	1(駅)	1(駅)	1(駅)						
	直接事業費 b(千円)	-	1,160	0	0						
	人件費 c(千円)	-	667	132	129						
	合計コスト d(b+c)(千円)	-	1,827	132	129						
単位コスト d/a(千円)	-	1駅当たり1,827	1駅当たり132	1駅当たり129	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → [条件] a(%)=年度体制整備駅、b(千円)=年度別事業費、成果指標(%)=[a+前年までの体制整備駅]/3駅
 H19実績 成果指標=[0+1]/3=33.3(%) 人件費6,673(千円)×2(人)×0.05=668(千円)
 H20実績 成果指標=[0+1]/3=33.3(%) 人件費6,624(千円)×2(人)×0.01=132(千円)
 H21実績 成果指標=[0+1]/3=33.3(%) 人件費6,457(千円)×2(人)×0.01=129(千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(%)	-	33.3	33.3	33.3						
	後期目標値に対する達成度(%)	-	55.5	55.5	55.5						

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		-	B	B	B						

4段階評価結果
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価		
	平成18年度	前後駅南地下駐車場の身体障害者用駐車場利用者の把握			身体障害者用駐車場をPRし、積極的に障害者に利用してもらう。			今後、PRの手法、利用状況を把握する必要がある。	
平成19年度	"			"			"		
平成20年度	前後駅のみならず、既存駅周辺の全域を網羅した点検作業を実施し、人にやさしさを与えられる施設構築を目指す			段差解消など弱者に強い公共施設を目指すため、積極的に3駅を巡回するようにする。			有料駐車場への料金徴収時に前後駅に併設されているエレベーターに乗降し、付近に障害となるものが無いか点検した。		
平成21年度	3駅の駅周辺の点検作業を実施し、人にやさしい施設の提言を目指す。			豊明駅南の月ぎめ駐車場設置に伴い、豊明駅の巡回頻度を増し積極的に利用者の目線で点検をする。			豊明駅の利用状況調査と同時に駅周辺の夜間及び昼間の安全確認を実施した。		
平成22年度									
平成23年度									
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度		-	
平成19年度		B	市民に車椅子用の駐車場を情報発信し、公正な利用者の向上を推進されたい。
平成20年度		B	高齢者及び生活弱者が安心して利用ができるように努めること。
平成21年度		B	利用者のアンケートなどを利用し、具体的な課題を探りながらバリアフリー化を目指すこと。
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			